

令和元年度滋賀県環境審議会総会概要

- 1 開催日時 令和元年（2019年）6月7日（金） 10時00分から11時30分
- 2 開催場所 滋賀県庁東館7階 大会議室（大津市京町四丁目1番1号）
- 3 出席委員 阿部委員（代理）、荒木委員、池田委員、石谷委員、潁川委員、大塚委員、奥田委員、小畑委員、金谷委員、金子委員、河本委員、菊池委員、黒川委員（代理）、桑野委員、籠谷委員、酒井委員、芝原委員、島田委員、清水委員、竹内委員、辻委員、東野委員、中野委員、中村委員、西川委員、西田委員、西野委員、仁連委員、福原委員、前畑委員、松四委員、望月委員、森委員（代理）、山川委員、山崎委員、山田委員、山本委員、吉積委員（以上38名）
- 4 議事
 - （1）県指定希望が丘鳥獣保護区特別保護地区の再指定について（諮問）
 - （2）県指定湖南市三雲鳥獣保護区特別保護地区の再指定について（諮問）
 - （3）各部会の活動概要について（報告）
 - （4）その他

【配布資料】

- 資料1 滋賀県環境審議会委員名簿、配席表
- 資料2 滋賀県環境審議会条例、滋賀県環境審議会議事運営要領
- 資料3 県指定鳥獣保護区特別保護地区の再指定について
- 資料4 各部会の活動概要

5 議事概要

- （1）県指定希望が丘鳥獣保護区特別保護地区の再指定について（諮問）

事務局が資料3に基づき、令和元年6月7日付けで諮問のあった「県指定希望が丘鳥獣保護区特別保護地区の再指定について」説明。

本件については、滋賀県環境審議会議事運営要領第5条の規定に基づき、自然環境部会に付議することとなった。

- （2）県指定湖南市三雲鳥獣保護区特別保護地区の再指定について（諮問）

事務局が資料3に基づき、令和元年6月7日付けで諮問のあった「県指定希望が丘鳥獣保護区特別保護地区の再指定について」説明。

本件については、滋賀県環境審議会議事運営要領第5条の規定に基づき、自然環境部会に付議することとなった。

- （4）各部会の活動概要について（報告）

各部会担当事務局から資料4に基づき順次報告。

委員

外来種の生態系のところで写真があったハクビシンを見かけた場合どこに報告すればいいのか。また、今、世界で問題になっているプラスチックごみについてどのようになっているか。

事務局

ハクビシンをはじめとした外来種について、基本的には地元の市町、県に情報を寄せていただき、駆除・防除も相談いただければ、被害の状況に応じて対応していくということが基本だと考えている。

事務局

プラスチックごみ問題については、特に海洋ごみを中心に世界的に大きな関心を呼んでおり政府でプラスチック資源循環戦略が作られ、国を挙げて削減しようとしている。本県では平成24年度から事業者等と協定を締結しレジ袋削減に取り組んでいる。社会で関心を持っていたこの機会に、より一層3Rの推進を行い、プラスチックゴミをはじめとした廃棄物の削減に取り組んでいきたいと考えている。

委員

21、22ページの溶存酸素量について、22ページのグラフは公開されているのか。また、今年も同じように推移していき、夏頃に2.0に行くか行かないか程度になると考えられるが、問題ないと捉えているのか。こうなってしまった場合、対応や今後の対面を考えているのか。

事務局

ご指摘いただいたように、グラフの勾配がこのまま続くと2.0を下回るのではないかと、心配している。ただ、現時点で何がどうなるか確定的には分かっていないので、しっかり監視モニタリングを行っていきたいと考える。

委員

先ほど、レジ袋を持参していただくという施策を伺ったが、県として、プラスチックごみが滋賀県で毎年およびトータルでどの程度発生し、時系列でどのように増減しているのか、その中でレジ袋がどの程度の割合を占めているか把握しているのであれば、教えてほしい。

事務局

手元に資料がないので、プラスチックごみの発生量は答えかねる。プラスチックごみの発生量におけるレジ袋の割合は少ないが、あくまで象徴的な取組であり、プラスチックごみ、廃棄物の削減に向けて県民の方、事業者の方に取り組んでいただく趣旨で行っている。

委員

マイクロプラスチックの問題が生態系に出してしまうことが大きな課題になってくるのではないか。そういったプラスチックごみを市民の皆さんが何気なく捨てることがないよう啓発が

今後の対策としては重要ではないか。

事務局

県民の皆さんの御協力をいただいて、環境美化活動を7月1日、12月1日、ごみゼロの日を中心に取り組んでいただいている。また、県で琵琶湖の中のプラスチックごみについて調査を行い、その状況を踏まえて廃棄物の方でも必要な対応をしていきたいと考えている。

委員

海洋ごみについて、海の無い県だが、琵琶湖岸にプラスチックごみが流れ着いているので、国の方針等も見極めながら、対策していただきたい。

また、釣りの用具が鳥や植物に絡まっているので、何か啓発できないか。

事務局

プラスチックなので、原因は人にあり、県ではごみを出していかない取組を行っているところであり、国の方からも知見を提供いただいて、啓発につなげたいとしている。

委員

ポイ捨てしない文化を滋賀県にどう浸透させるか、ごみの回収、ポイ捨てをしない仕組みを作っていけないか。また、6ページ温室効果ガスの排出量の推移が書いてあるが、この推進計画では数値目標の設定はなかったのか。目標値と達成率のような達成状況で示してもらえないか。

事務局

目標値は、6ページの図表2の右端に書いている。もう少しわかりやすいようにしていきたい。

事務局

ポイ捨てごみに関しては、滋賀県ではクリーン条例で環境美化活動等について規定しており、啓発活動等も併せて取り組んでいるので、先ほどの繰り返しになるが、関心を持っていただいている社会の現状を踏まえ、取組を進めていきたいと考えている。

委員

守山市に大きな川が8つあり、すべて赤野井湾に流れ込んおり、田植えの時期に代かきで川が濁るが、具体的に赤野井湾へどんな影響があるか調べたことはあるのか、またデータとして何かあれば教えていただきたい。

事務局

代かきの影響限定で調べたことはないが、20ページに琵琶湖へのCOD流入負荷量の経年変化のグラフがある。代かきだけではないが雨などで農地からどれほどの影響が出そうかというものは見積り、シュミレーションという形で追いかけているところである。これを赤野井湾に

限って再集計すれば、数字は出ると考えられる。

委員

NPO でホテルとシジミの回復について活動しており、赤野井湾で昔はたくさんのシジミが取れたらしく、最近は難しいという実感だが、県として対策は考えているのか。

事務局

赤野井湾の関係者みんなで取組をしようという計画を作っている。そういった中で、赤野井湾における水質改善の取組を県だけでなく、農業、漁業等の地域の皆さんにも入っていただきながら取り組んでいる。

委員

マイクロプラスチックについて、琵琶湖の水中のマイクロプラスチック濃度がどのくらいあるのか、琵琶湖の中の生き物に蓄積されるのがどの程度なのか、何かデータはあるのか。あるいは、これから調べられるのか。

事務局

水中のマイクロプラスチックに関するデータとしては瀬戸内海と似た濃度と伺っている。生き物については、全国的にも世界的にも調べれば出てくるという話は聞いており、琵琶湖の中でも情報を確認している。しかし、プラスチックそのものに毒素はなく大変小さいサイズなので、お腹に入っても、毒物として作用するという話は聞いていない。

会長

マイクロプラスチックについてたくさんの意見があり、これから滋賀県はこの問題にも積極的に取り組んでいくようになると思うが、この辺りで御意見をお伺いするのを終わらせていただいてよろしいか。

本日本日予定していた議事は以上である。

(以上)